

平成 28 年度第 3 回市民部会 意見交換のまとめ

平成 28 年度第 3 回市民部会では、平成 28 年度第 2 回市民部会で提案のあった普及啓発の取り組みについてアイデアを出し合いました。今回の会議では、部会共通のテーマに決定した『茅ヶ崎ユニバーサルスポーツフェスティバル』を基軸として、プログラムの具体的な内容や調整が必要な事項等について検討します。

1. プログラムの方針

市民への理解促進

- 障害者の相互理解促進だけでなく、市民に広く理解促進が深まる取組とする。
- 興味のない人でも目に入るところでできるとよい。
- 東京オリンピック・パラリンピックに向けて意識が高まっていく時期に入っていくため、この動きを捉えていく。

取り組みへの集客

- 理解促進を図るべきターゲットを明確にし、効果的な広報・周知活動を展開する。
- 事業そのものに参画する人を集めることにより、集客効果を高めていく。
- 参加者側としては、義務的に行くというよりもまずは楽しくないといけない。様々な広報の方法があるが、最も効果的なのは、取り組みに参加して楽しかった人が口コミで広げることである。第一段階では、一般市民向けの取り組みと連携するなど、一般の方のいる場所に飛び込むことが有効ではないか。

実現しやすさ

- 既に取り組みされている活動を基軸にしなが、様々な理解促進プログラムを付加していくことで、実現性の高い取組を推進していく。

継続・展開可能性

- 出前講座やバリアフリーに関する動画作成・活用は、様々な取り組みを展開する中で発展的に取り組めるとよい。

【出前講座】取り組みを通じて当事者の人材育成を行い、人前で話せる人を増やしていく。

【バリアフリーに関する動画作成・活用】様々な取り組みの記録として動画を撮影し、撮り溜まった段階でどう活用するか検討する。

2. 市民部会の主な意見

①茅ヶ崎ユニバーサルスポーツフェスティバル

項目	意見・提案	班
既存の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 茅ヶ崎ユニバーサルスポーツフェスティバル ➤ 毎年 11 月に総合体育館で実施されている。 ➤ 団体ごとにブースを担当しており、障害者の方が参加される際には係員の方が競技しやすいように工夫するなど、互いの配慮がうまれている。 ➤ 市広報の他に、障害者団体や子ども会を通じてイベント周知している。 	共通
市民への理解促進	<p>開催場所について</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 総合体育館とし、全棟を貸し切り様々な連携取組を展開する。 ➤ 市の体育館か企業の体育館がよい。TOTO は体育館やグラウンドの一般貸出を行っている。企業で開催することで、社員の方にも興味を持ってもらえるのではないかと。 <p>会場内のゾーニングについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 静音性が求められる競技もあるため、空間を分けるなど体育館全体を活用したゾーニングを行う。 ➤ 会場のマップ等がないため、それらの案内の充実等を図る。 <p>プログラムの具体的な内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 時間帯を分ける方法も含め、プログラム全体に変化をもたせる。 ➤ おしゃべりサロンやバス乗車体験等をフェスティバルに併せて実施することも考えられる。 ➤ ルールは障害者スポーツのものを適用したうえで、障害者と一般の方が対戦する。 	<p>1 班</p> <p>2 班</p> <p>1 班</p> <p>1 班</p> <p>1 班</p> <p>2 班</p>
取り組みへの集客	<p>イベントの周知方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ スポーツという特性を活かした集客を図るため、子どもや家族連れをターゲットに小中学校でのチラシ配布などを行い集客を図る。 ➤ 一般のクラブチームに参加を呼び掛ける。(バスケ、サッカー等) ➤ 大学生などにもボランティア活動を通じて参加してもらう。 ➤ SNS なども活用し拡散型の効果的な周知方法も取り入れる。 <p>集客力を高める工夫について</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 魅力的なコンテンツを追加する。車いすバスケがないため、ミニバスケットなど子どもとの交流を深められる体験型のイベントとするなど集客力の高いコンテンツを加える。(車いすバスケ実施主体への働きかけ可能) ➤ スポーツだけでは集客効果が低いため、飲食を提供(福祉祭り等で既に実績のあるものやキッチンカー等)することで集客力を高 	<p>1 班</p> <p>共通</p> <p>1 班</p> <p>1 班</p> <p>1 班</p> <p>1 班</p>

項目	意見・提案	班
	<p>める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 一般の方の参加を促すには土日開催が良い。 ➤ 優勝者には賞品を準備するなど、インセンティブを与えることで一般の方の参加を促す。 	<p>2班 2班</p>
外出機会の促進	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 協議会に参加しているバス事業者と連携し、このイベントへの参画の他、様々な取り組み（学校への出前講座等）への協力関係を構築する。（バスの利用促進→外出機会の促進にもつながる） 	1班
継続・展開可能性	<p>継続性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 既存のイベントとして確立されているため継続性は高い。 <p>展開可能性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ サザンビーチをフィールドにマリンスポーツやサイクリング（タンデム自転車）等のスポーツフェスティバルの可能性が考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ビーチの活用可能性が高まれば、地引き網等の活動への展開も可能。 ・由比ヶ浜ではブルーフラッグ認証ビーチとして、バリアフリーにも取組を進めており参考になる。 ➤ イベント時に J:COM に取材に来てもらい、市の広報番組等で放送してもらうことで、市民に広く周知することができるのではないか。 ➤ イベントにおける映像コンテンツを蓄積し、啓発活動や次のイベント周知のための素材として活用することで理解促進にもつながるのではないか。 	<p>1班 1班 2班 共通</p>
実現に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 市民部会として、企画参加、外部評価、参加者紹介等の役割が可能であり、イベントの実施主体との早期段階での調整が必要。 ➤ イベントの規模拡大や周知広報に係る経費負担増などが考えられるため、協賛企業等を募集するなど資金調達が必要。 ➤ 現在は年1回の開催であるが、イベント化してしまうよりも、定期的に開催することで参加者を増やしていけないか。 ➤ インパクトのあるイベントであるが、参加できる方が運動できる元気な方に限られてしまう。 	<p>1班 1班 2班 2班</p>

②おしゃべりサロン

項目	意見・提案	班
既存の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ➤ サロンは市内で 100 程度ある。 ➤ 市内の各地区で開催されている。(高齢者サロン、子育てサロン等) ➤ 老人クラブでは月に 1 回サロンを実施。40 名程度が集まる。カラオケしたりおしゃべりしたりお弁当を食べたりしている。 	2 班
市民への理解促進	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 障害のある方と一般の方が気軽におしゃべりをして交流することが一番の理解促進につながる。 	
取り組みへの集客	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 各地区にまちぢから協議会有り、地区の主要メンバーはおおよそ所属している。取り組みの対象、もしくは連携できるとよい。 	
外出機会の促進	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 障害者や高齢者が外に出るきっかけ、場所づくりにつながる。 	
継続・展開可能性	<ul style="list-style-type: none"> ➤ イベント時に J:COM に取材に来てもらい、市の広報番組等で放送してもらうことで、市民に広く周知することができるのではないかな。 ➤ イベント時の様子を記録として動画を撮影し、他の取り組みとあわせて動画を作成し、活用することで理解促進にもつながるのではないかな。 ➤ インパクトはないが、時間をかけてじっくり行う意義はある。 	
実現に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 既存のサロンの時間帯は平日の昼間が多い。障害者は作業所に通っている時間帯なので検討が必要。 ➤ 既存のサロンの運営は高齢者が行っている場合が多い。運営側からは抵抗感を抱く方もいるかもしれないので調整が必要である。 ⇒イオンやスターバックスなど多くの人の目につくところで新たに企画しても良い。 	